



施策	実施施策の目標	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
教育相談・支援体制の充実	①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	・様々な角度からの児童理解・支援の推進。	・全国学力、学習状況調査の結果分析 ・キャリアパスポートの活用 ・学校評価	・自身と他者を尊重し、認めることができる。 ・自発的に学習や学校生活に取り組むことができる。	B	【成果】 ・キャリアパスポートを活用しながら自分の成長を振り返り、頑張ったことなどを自覚することができ、未来の自分への方向性を考えることができた。 ・キャリア教育を通して、いろいろな事を共有し、他者の考えを聞くことで、他者を尊重することができた。 ・全国学力、学習状況調査の結果を踏まえ、今後の指導の方向性を教職員間で共有することができた。 ・各学年の実態に合わせたキャリア教育を実施することで、学習や学校生活がより楽しく取り組めるようになった。 【課題】 ・先を見据えた指導を増やせるよう、キャリアパスポートを活用しながら今後も取り組んでいきたい。 ・保管方法についても改めて検討していきたい。	・キャリアパスポートをより効率的に活用できるように工夫をする。 ・定期的に見返すなどをして、先を見通す材料にしていけるよう指導をする。	・改善策に繋がっていることを深堀りして対応していただきたい。
		・計画的・組織的な支援体制の整備	・共に生き、共に学ぶ力を育て合う仲間作りの実現を図る。 ・1年児童に特別支援学校についての説明や見学を行う。 ・子どもや保護者の思い・願いを受け止めながら支援する。 ・関係機関と連携を取りながら、通級指導や巡回相談、コンサルテーションなどを有効的に活用し、支援の必要な児童への理解を深め、支援方法を充実させる。 ・特別教育支援員を活用し、必要な児童への支援を行う。 ・支援が必要な児童については校内支援委員会で情報を共有し、職員全体へ共通理解を促していく。必要に応じてケース会議を開く。 ・校内支援委員会において、教室環境の整備やユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりなどを周知していく。	・様々な特性の特性を共通理解する研修などを2回行い、特別支援の知識や指導方法を磨いていく。	B	・今年度も部会での情報共有の他に、スクールカウンセラーの活用、スクールソーシャルワーカーとの連携を進めることができた。また、ケース会議やミニケース会議を開くことで、学校側が取り組むべきこと、外部機関ができることを共有し、組織的に対応することができた。それらの内容を保護者との面談において、はっきりと示すことができ、今後の方針について具体的に話すことができるようになった。 ・長期欠席児童に対し、年度初めに面談を実施したことで、年度初めの児童と保護者の不安を和らげられるようになった。一定の効果は感じたが、著しく減少とは行かなかった。	・不登校傾向にある児童・家庭に対してのアプローチ、外部機関との連携は昨年年度に増して進んでいるが、引き続きケース会議を開き、学校側と外部機関と密に連携をとっていき。また、来年度も1ヶ月に3日程度、登校渋りが見られた際には、すぐに担任、当該学年、生活指導担当など、少人数・短時間で情報を共有し、今後の手立てを考えるミニケース会議を積極的に実施していく。	・オープンスクールの際に、別室「ひだまりルーム」を見学した。様々な子どもたちにベテランの不登校対策支援員の先生の対応が素晴らしいと感じた。 ・児童と保護者の不安を和らげるために、家庭・外部機関との連携を強化してもらいたい。 ・長期欠席児童の減少には継続的な支援が必要である。 ・どこまで学校がケアするのか難しい問題と思う。
		・個別の指導計画の作成	・合理的配慮をふまえた個別の指導計画を作成し、サポートファイル「くぐんステップ」を通して、継続的な支援を目指す。	・教職員の評価アンケート「要配慮児童の共通理解は関わる職員間で十分であったか」と回答する割合が85%以上になる。	B	・学習の基礎となる文字や数字を学習する1年生へのアプローチが遅くなってしまい、平仮名が書けない児童が複数いる状態になっていることが課題である。 ・毎月の特別支援部会で各学年の支援が必要な児童について共有することができた。そこから、さらに必要な児童については巡回相談やケース会議を行い、通級指導や転属へと繋ぐことができた。 ・教職員の評価アンケートで「要配慮児童の共通理解は関わる職員間で十分であったか」と回答する割合が97%であり、目標を達成した。	・本年度も長期欠席児童に対し、年度初めに面談を実施し、年度初めの児童と保護者の不安を和らげられるようにする。 ・今後も継続していくとともに、学びポケットの協力の協力依頼なども継続し、周知活用していく。	
教育職員の資質向上	①研修等の充実	・認めあい、高め合い、協働して取り組む教師集団を育むための校内研修の充実	・夏季研修の時期を見直し、研修内容を夏季休業中に深められるようにする。 ・本校職員や市教委を講師とした自由参加のスキルアップ研修を若手中心に運営し、資質の向上をはかる。	・7月中に夏季研修を実施する。 ・スキルアップ研修を月に1回実施する。 ・特に若手は積極的に参加してもらったり、運営を行ったりする。 ・スキルアップ研修はニーズに合わせて開催できるように、事前に聞きたい内容のアンケートを実施する。 ・全職員が1度は他校の研究発表会に参加できるよう呼びかける。 ・随時研修案内を学年ごとに配布して参加しやすい環境を作る。	B	・夏季研修の時期7月中にしたことで、研修の内容を深めたり、広げたりすることができた。 ・「スキルアップ研修は、職員の相互理解や学び合い関係づくりに寄与している」という研修のアンケートの結果が、92%という結果になった。今後もスキルアップ研修を月1回実施していきたい。ただし火曜日開催が多く、参加が難しい職員がいた。 ・働き方改革の観点から、研修の内容を吟味・精選することができた。 ・スキルアップ研修は目標以上の回数を実施することができた。また、研修の参加方法を考えていく必要がある。 ・全職員に市内の他校の研究発表会に参加できるように事前に一貫して、学年ごとに話し合ってもらい、参加を促すことができた。	・平仮名の学習終了後に、児童の実態を把握し、必要な児童については2学期以降早急に学校コンサルテーションを受け、適切な支援を受けられるようにする。	・特別支援学級で、子どもたちの思いやり、助け合いの心が生まれてくると思う。 ・対策されていることで、問題は改善されていると思う。 ・入学直後からの基礎学習チェック、早期支援計画の作成、必要な時期での指導強化をお願いしたい。
教育環境の整備・充実	①学校運営協議会の充実 ②子ども安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	①学校運営協議会の充実を回り、現場のニーズに応じた「授業支援ボランティア」を実現する。 ②地域・保護者との連携を図る。 ③積極的な情報収集と適切な情報発信の実施	①学校運営協議会に各学年から1名、教職員も参加し、教師としてのやりがいと保護者・地域に手伝わってもらいたいことを具体的に伝える。 ②PTAの主催行事や地域の行事等に積極的に参加する。 ③学校通信やホームページ等を活用した学校教育活動の積極的な情報発信をおこなう。	①授業支援ボランティアの年間計画を作成し、見直しをもって取り組めるようにする。 ②「学校は、保護者や地域の人たちの願いに応えようとしている。」の割合を90%以上にすること。 ③「学校は、学校の情報をわかりやすく伝えている。」の割合を90%以上にすること。また、状況に応じて、休校や学級閉鎖等の学校情報を積極的に発信する。	A	①学校運営協議会を年3回開催することができた。今年度は各学年の教員が参加する回もあり、より連携のある学校運営につながった。 ②「学校は、保護者や地域の人たちの願いに応えようとしている。」の割合は92.8%となり、目標を達成することができた。また、校内外の学習サポートを依頼し、協力していただいた。 ③「学校は、学校の情報をわかりやすく伝えている。」の割合は99.6%となり、目標を大きく達成することができた。学校通信やホームページに加えて、まなびポケットも有効活用することができた。	・学校運営協議会委員と教職員の交流の機会を増やす。また、不登校対策支援についても議論をおこなっていく。 ②計画的に保護者や地域との交流・連携を図り、地域としての教育力を高めていく。 ③引き続き、地域に開かれた学校として積極的な情報発信をおこなっていく。	・今後も様々な刺激を受けてスキルアップして授業の熱心さ、フレンドリーな授業が研修の成果だと思う。 ・スキルアップ研修など、先生の学習時間は必要だと思う。
		④校内の安全点検の実施	①各種危機管理マニュアルの作成・改善 マニュアルを元に訓練を計画し、実施。 ②訓練時におけるの指導の実施。 校内における避難経路の標示。 ③事故防止、交通安全の啓発 ④定期的な安全点検。 自然災害後の、校内の安全点検。登下校時の安全確認。	・マニュアルを作成している。 ・各学年に1回以上の訓練を実施している。 ・訓練後にふり返しを行い、次年度への引き継ぎを行う。 ・長期休み前、交通ルールについて学級指導を行う。 ・3年生時に、自転車教室を行う。 ・毎月(年間10回)安全点検を行い、安全で安心な教育環境を整える。 ・音報が発令された際、職員全体で安全点検の箇所を割り振り、児童の登校時、下校時の安全を確認する。 ・校内に避難経路を標示する。	A	・マニュアルを作成し、各学年にも冊子を配布している。 ・避難訓練を行い、ふり返しから、マニュアルの更新の必要性を感じた。今後も状況の変化を取り入れながら訓練を行っている。 ・避難経路の矢印を廊下に掲示し、どこに向かうか分るようになっている。 ・訓練の事前指導、事後指導の呼びかけを行った。訓練前には事前に放送を鳴らすなど、準備を行った。 ・長期休み前には、交通ルールの学級指導を行った。 ・毎月、安全点検を実施した。少しずつ修繕が進んでいる。また、修繕箇所があるので、継続して修繕の申請を行っている。 ・行方不明時にどう動いたかのマニュアルを作成し、生活指導と連携するなど、組織として動けるよう整えた。	・今後も、予測される事態を想定した訓練を行い、そこで気づきをマニュアルに反映していくことで、活用しやすい物を作っていく。 ・避難訓練を通して児童に防災・防犯への意識が更に育ってきている。今後も事前指導と事後指導も児童の実態に応じて行っていく。 ・通学路を守るよう呼びかけると同時に、守っていない児童を把握し、来年度に引き継ぐ。 ・毎月の安全点検に対しての職員の意識を上げていく。そのためには部会でも話し、職員へ声かけを行っていく。	・南海トラフ地震等、防災意識が高まっている。東日本大震災の対応を教訓に活かしていただきたい。 ・鶴岡地区で自治会が解散し、見守り活動が行われていないのが残念。 ・交通安全対策については、4月から自転車事故が多いため、安全教育をより一層充実してもらいたい。 ・先生も心にゆとりがとれるようにしてもらいたい。
⑤学校における働き方改革の推進	①余裕をもったメカの設定と徹底で、お互いの業務を圧迫しない。 ②教員の業務と教頭の業務を整理し、教員が子どもに向き合う時間を確保する。 ③退勤予定時刻の明示を、お互いの働き方を気遣える職場づくりを心がける。	①市教育委員会等へのメカ文書について、校内では市のメカ2日前に設定して職員に伝える。 ②校納金の集金回数、会計報告を年2回にする。 市教育委員会等への文書について、担当が作成するもの、担当が取りまとめで行うもの、教頭が作成するものに整理する。 ③出勤簿の横に名前マグネットを置き、退勤予定時刻を明示することで、教職員の超過勤務時間を減らす。	A	①書類作成依頼を早めに行うことで教員の業務に余裕を持たせ、メカよりも早く提出ができる教員が増えた。 ②校納金の集金回数・会計報告の減らしたことで、未納家庭への呼びかけを教頭も行ったことで、教員の銀行に関する業務が大幅に減少した。 ③今年度も教員と教頭の業務整理を心がけ、教員が業務時間を子どものために使えるようにしていく。 ④超過勤務を超える一部教員に偏りがあることから、校務分掌などの業務の分担を検討していく。				

学校関係者評価総括

年度初めに、教員と学校運営協議会の委員との意見交流会が実現し、昨年度の課題であった、「地域連携の年間計画」を作成することができた。また、昨年度は地域中心であった「授業支援ボランティア」に保護者の参加が増えてきている。6年生の児童が地域貢献活動として公園清掃に取り組んだことで、「開かれた学校づくり」そして「地域と共にある学校」が着実に前進している。今、学校がどのような授業を目指しているのかを知るために、研究授業に、学校運営協議会の委員も参観し、課題を共有したい。

次年度に向けた重点的な改善点

創立70周年を機に、児童・教職員・保護者・地域が、「天神川小学校を誇りに思う気持ち」を育てていきたい。来年度の重点目標を「授業力の向上」とし、目指す学校像、子ども像、教師像の実現に取り組んでいきたい。